

# 和歌山ゆかりの高僧紹介

## 県立博物館企画展

## 半分以上が初公開



法灯国師坐像 円満寺蔵



初公開の弘法大師像 遍照寺蔵

和歌山市吹上の県立博物館は16日から3月16日まで、企画展「高僧の姿」を開く。全国初公開の資料や具指定の文化財を含む彫刻や絵画、文書など57点を展示する。

僧侶は人々を救済する宗教家であり、同時に文化、芸術にかかわる学者や知識人もあった。県内からも歴史に名を残した僧侶が多く出ている。

今回は、高野山を開いた弘法大師空海とその弟子たち、鎌倉時代の華厳宗の僧・明恵上人、鎌倉時代の禅僧・法灯国師無本覚心を中心に、和歌山県にゆかりのある僧侶37人に関する資料を集め、高僧の業績や、その姿が伝えられている背景に迫る。

資料の半分以上が初公開。空海は遣唐使の一員として唐に渡り、帰国後、密教の布教に努め、高野山を開いた。紀美野町遍照寺の本尊「弘法大師像」を初公開する。空海の実弟の真雅ら高弟を描いた「弘法大師十大弟子及び真然・常誓像」も紹介する。

明恵上人は有田地域を治めた湯浅氏の出身で、密教や華厳宗を修め、京都栴尾の高山寺を開いた。鎌倉時代を代表する仏教の改革者といわれる。湯浅町施無畏寺の「明恵上人像」は京都高山寺の画像を模写したもの。自身が見た夢を書き留めた「承久3年夢記 明恵筆」なども展示する。

法灯国師無本覚心は東大寺で受戒し、高野山で密教や禅を学んだ。1249年、由良町付近から船で宋に入り、帰国後、同様に興国寺を開いた。興国寺の像より先に作られ、県内で類型が見られないとされる「法灯国師坐像」などを展示する。

3月2、16日のいずれも午後1時半から学芸員が展示解説する「ミュージアム・トーク」がある。申し込み不要。

開館時間は午前9時半～午後5時。月曜休館。入館料は一般260円、大学生150円、高校生以下、65歳以上、障害者、県内在学の外国人留学生は無料。